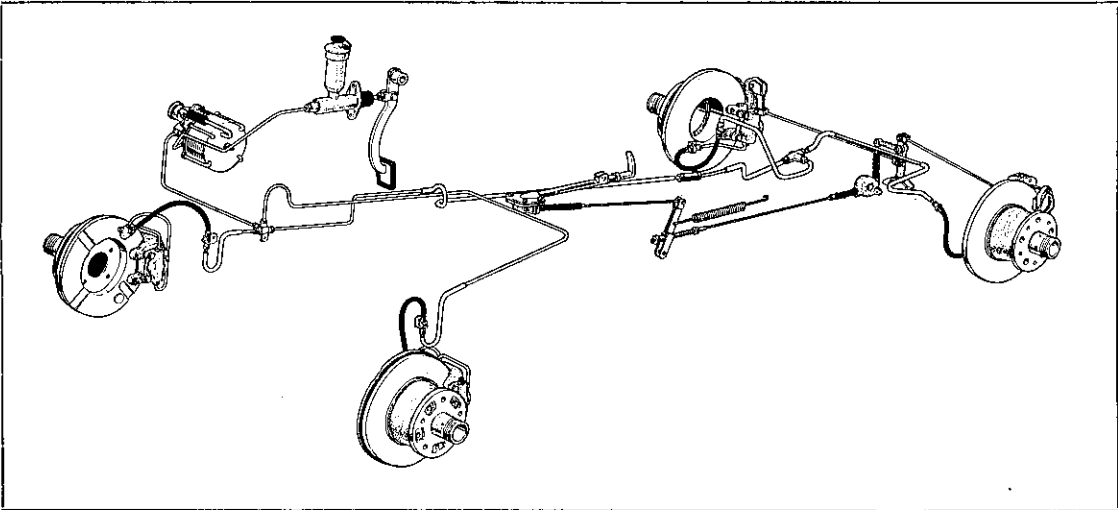


ブレーキ

概 説.....	14-2
仕 様.....	14-2
トラブル シューテイング	14-3
一般調整と修理.....	14-3
ブレーキ ペダル	14-4
マスタ シリンダ	14-4
ブレーキ キヤリパ	14-5
パーキング ブレーキ	14-8
ブレーキ ブースタ	14-10

概 説



第14-1図 ブレーキ系統図 G0408

仕 様

第14-1表 ブレーキ仕様

主 ブ レ ー キ	種 類 , 形 式	フ ロ ン ト	固定キャリパ型 2 シリンダ ディスク
		リ ヤ	
	デ イ ス ク 径	フ ロ ン ト	280.0 mm
		リ ヤ	266.5 mm
	パ ッ ド 表 張 寸 法 (幅 × 厚 さ × 長 さ)	フ ロ ン ト	47.5×16×54 mm
		リ ヤ	
	表 張 面 積	フ ロ ン ト	51×2 cm ²
		リ ヤ	
	パ ッ ド 材 質	フ ロ ン ト	住 友 M33-S
		リ ヤ	
ホ イ ー ル シ リ ン ダ 内 径	フ ロ ン ト	53.975 mm	
	リ ヤ	38.100 mm	
マ ス タ シ リ ン ダ 内 径		22.22 mm	
最 大 油 圧		126kg/cm ² (踏力100kgにて)	
倍 力 装 置 形 式		真 空 サ ー ボ	
駐 車 用 ブ レ ー キ	種 類 , 形 式		機械式後輪 2 輪制動
	表 張 寸 法 幅×厚さ×長さ		41.2×11.7×31.8 mm
	表 張 面 積		21.6×2 cm ²
	パ ッ ド 材 質		ミンテツクス M34

ブラトル シューテイング

現象および推定原因	処 置
制動力不足 1 油圧機構油漏れ 2 真空サーボ機構不良 3 パッド摩耗大 4 パッド当たり面油付着	修理または交換 修理または交換 パッド交換 ディスクおよびパッド清掃
ブレーキ鳴き 1 パッド表面にカーボン付着 2 パッドの傾き 3 ベアリング（ホイール用）のゆるみ	ヤスリまたはサンドペーパーで表面修正 パッドとピストンのかん合修理 調 整
ブレーキ片効き（制動時にハンドルを取られる） 1 パッド当たり面に油付着 2 タイヤ空気圧不つり合い 3 フロントアライメントの狂い 4 ベアリング（ホイール用）のゆるみ	ディスクおよびパッド清掃 空気圧調整 フロントアライメント調整 調 整
ペダルストローク大 1 油圧機構にエア侵入 2 マスタシリンダプッシュロッド遊び大 3 油圧機構の油漏れ 4 自動すき間補正装置作動不良	エア抜き 調 整 修正または交換 シリンダアッセンブリ交換

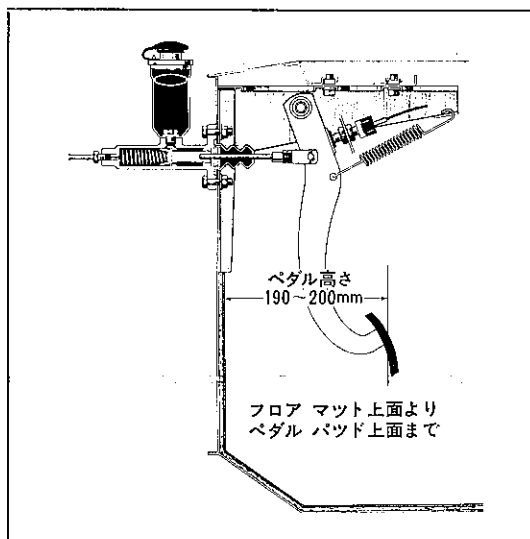
一般調整と修理

ブレーキペダル調整

- ストップランプ用スイッチでペダルを規定高さに調整する。
 ペダル高さ 190～200mm
 踏み残りしろ限度 70mm
- プッシュロッドとピストンの間にわずかな遊び（0.3～1.0mm）ができるようにプッシュロッドの長さを調整する。

ディスクブレーキパッドの交換

パッドの切りみぞマーク（厚さ6～7mm付近）まで摩耗した場合は交換する。
 パッドリムーバアンドリプレーサ〔09719-20010〕を使用して行なう。



第14-2図 ペダル調整

Y5299

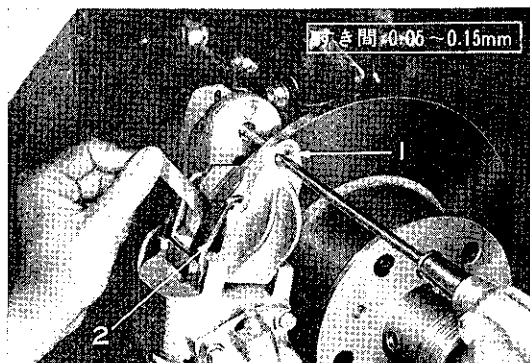
パーキング ブレーキ調整

注 標準荷重状態にて調整する

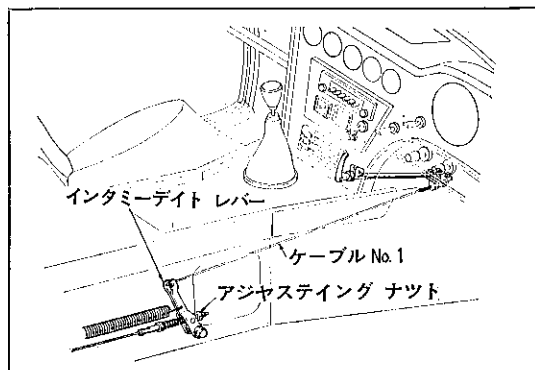
- 1 パッドとディスクのすき間を両側とも基準値になるよう、スクリュ(1)で調整する。

すき間基準値 0.05~0.15 mm

- 2 両側のすき間が異なる場合は、リトラクションプレート(2)をはずし、曲げて調整する。
- 3 ブレーキ プランジャをもどした状態で、インタミードイト レバー部のアジャステイング ナットにより各ケーブルのゆるみをなくする。
- 4 調整後プランジャを引いてみて、引き始めにいくらかの遊びがあり、完全に作動したときの引きしろが8~9こまでであること。



第14-3図 パーキング ブレーキ パッド調整 V1787



第14-4図 パーキング ブレーキ ケーブル調整 G0409

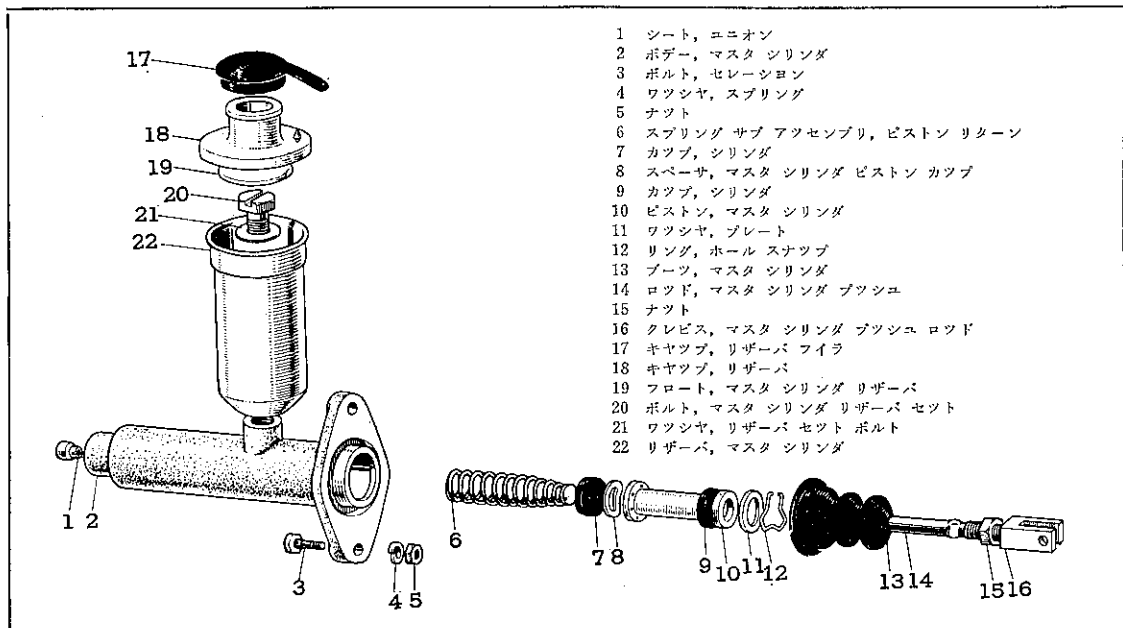
エア抜き

エア抜きの順序は、ブースタ エンド プレート上部、ハイドロリック シリンダ プラグ部を行なった後、マスタ シリンダより配管の遠い部分から順に行なう。

ブレーキ ペダル (クラッチ ペダルの項 P8-3参照)

マスタ シリンダ

構成部品



第14-5図 マスタ シリンダ構成部品

Y5300

仕 様

第14-2表 マスタ シリンダ仕様

シ リ ン ダ 内 径	22.220~22.272 mm
ピ ス ト ン 外 径	22.147~22.180 mm
シリンダとピストンのすき間	限度 基準 値 0.15 mm 0.04~0.125 mm
スプリング (ピストン リターン用)	自 由 長 取 り 付 け 長 取 り 付 け 荷 重 81.3 mm 55.4 mm 2.2 kg

取りはずし, 分解, 点検, 組み付け, 取
り付け

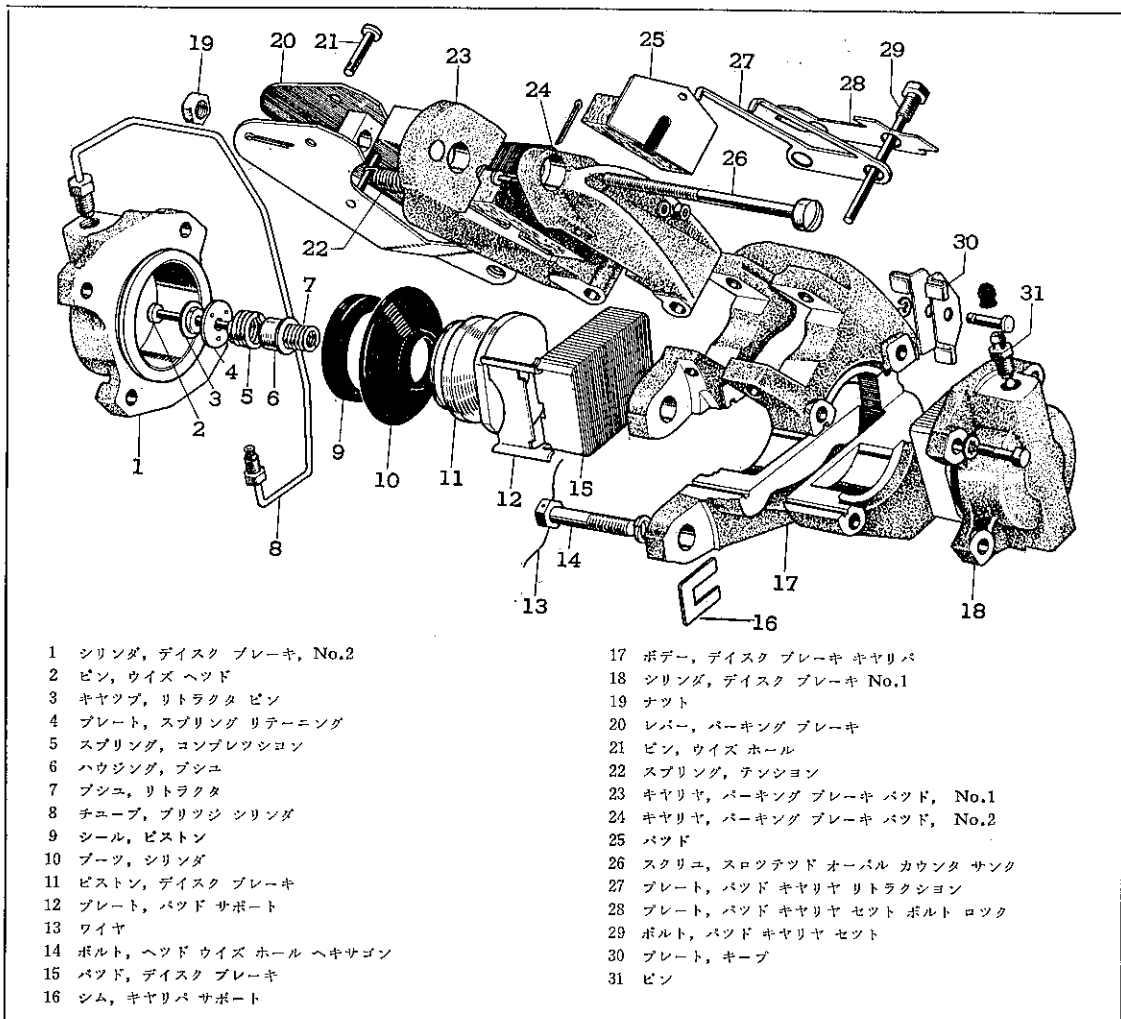
クラッチ マスタ シリンダの項 (P8-5) 参照

注

作業の際ブレーキ フレイツドが塗装面にかからない
よう注意する。

ブレーキ キヤリパ

構成部品



14

第14-6図 キヤリパ構成部品

Y5301

取りはずし

- 1 ホイール シリンダ チューブ (1) を取りはずす。
- 2 ロック ワイヤ (2) キヤリパ 取り付けボルト (3) をはずし、キヤリパを取りはずす。

注 キヤリパ サポート ブラケットとキヤリパ ボデーの間にシム (ディスクとキヤリパ中心位置調整用) がはいつているので、枚数を混同しないこと。

- 3 ディスクを取りはずす。

注 ディスク取りはずしは、ハブ脱着の項(P11-4)を参照のこと。

- 4 ダスト カバーを取りはずす。

分 解

- 1 キヤリパからブリッジ パイプ (6) を取りはずす。
- 2 シリンダ アッセンブリ No.1 (7), No.2 (1) をはずし、パッド (4) を取りはずす。

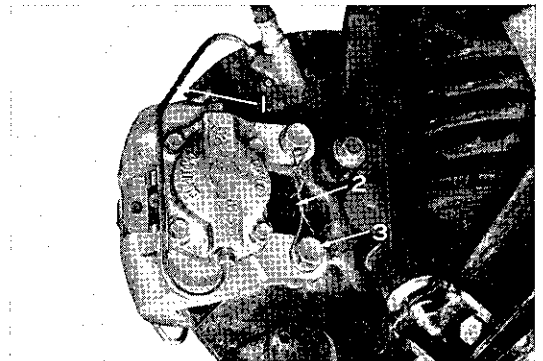
注 シリンダの内部機構 (2) は、その組み付けに各種の設備や試験装置を要するので、原則として分解しないこと。

- 3 キープ プレート (5), パッド サポート プレート (3) を取りはずす。
- 4 アクスル ハブよりディスクを取りはずす。

注 ディスクとハブには合わせマークをつける。

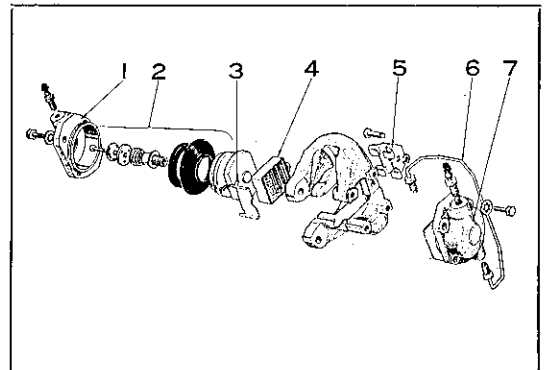
点 検

- 1 キヤリパ, キヤリパ サポート ブラケットのき裂, 変形を点検する。
- 2 ブレーキ パイプ類のき裂, ユニオン ナットのねじ山を点検する。
- 3 シリンダの油漏れ, 自動すき間補正装置に不具合がある場合は, シリンダ アッセンブリで交換する。



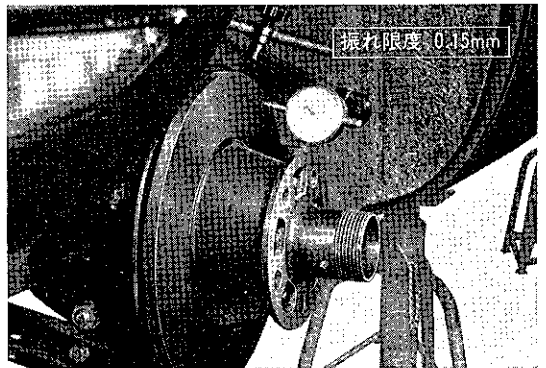
第14-7図 キヤリパ取りはずし

V1788



第14-8図 キヤリパ分解

Y5302



第14-9図 ディスク振れ点検

V1789

- 4 ディスクの振れが限度以上のもの、厚さが限度以下に摩耗したものは、修正または交換する。

振れ限度 0.15mm (外周部にて)

厚さ限度 10 mm

基準値 10.4mm

注 修正する場合、必ずハブ付きで行ない、両面を均等に修正する。

表面粗度 12S以上 (▽▽仕上げ程度)

組み付け、取り付け

組み付け、取り付けは次の項目に注意して分解、取りはずし作業の逆に行なう。

注

- 1 アクスル ハブとディスクを分解時のマークに合わせて組み付ける。

締め付けトルク $3.0 \sim 4.5 \text{ m} \cdot \text{kg}$

- 2 シリンダの組み付け方向は、ブリーダ プラグが上方車両外側になるよう組み付ける。

- 3 ディスクを組み付けたハブを取り付け、ベアリング調整 (P11-5) を行なった後、ディスクの振れを点検する。

ディスク振れ限度 0.15 mm (外周部にて)

- 4 キャリパをサポート ブラケットに、取りはずしたときと同量のシムを入れて締め付け、ディスクとキャリパの中心位置を点検する。

シム調整はキャリパよりパッド (インナ、アウト) をはずし、キャリパ ブリッジからディスクの見える量が左右等しくなるように調整する。

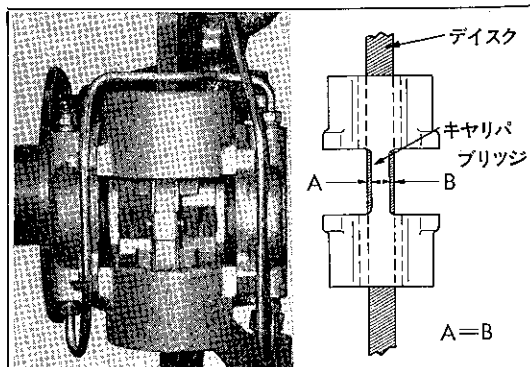
締め付けトルク $9.3 \sim 12.0 \text{ m} \cdot \text{kg}$

シム厚さ $0.2, 0.4, 0.8 \text{ mm}$

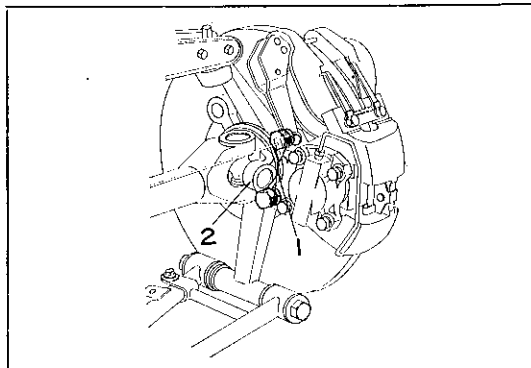
フレア ナット締め付けトルク

$1.3 \sim 1.8 \text{ m} \cdot \text{kg}$

- 5 リヤ キャリパ取り付けボルトをワイヤで回り止めする際、ワイヤ(1)がドライブ シャフト(2)に当たらないように注意する。(第14-11図)



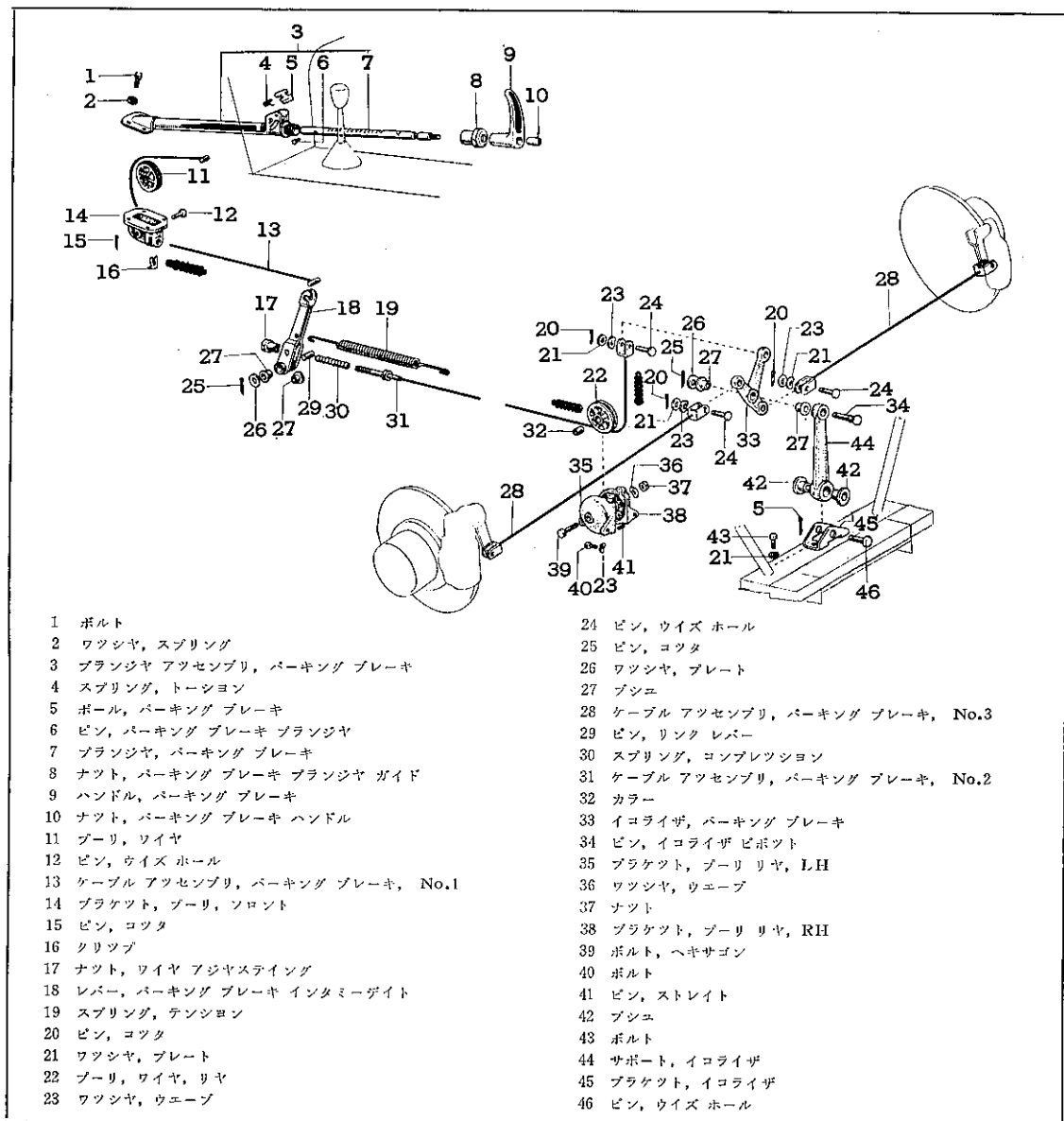
第14-10図 ディスクとキャリパの関係 V1790, G0410



第14-11図 リヤ キャリパ取り付け

G0411

パーキング ブレーキ 構成部品



第14-12図 パーキング ブレーキ構成部品

Y5303

パーキング ブレーキ ブランジャ およびケーブル No.1

取りはずし

- 1 プロペラ シャフトを取りはずす。
- 2 テンション スプリングを取りはずす。
- 3 インタミデイト レバーよりケーブル No.1 をはずす。
- 4 右インストルメント サイド カバーを取りはずす。

ずす。

- 5 ヒータ ブロウ アツセンブリをはずし, プーリ ブラケット 取り付けボルト (4本) を取りはずす。
- 6 ハンドル, ブランジャ ガイド ナットをはずし, ブランジャをケーブル No.1 付きで取りはずす。

- 7 パーキング ブレーキ ボールを持ち上げてプランジヤを完全に下げ、ケーブルをプランジヤからはずす。
- 8 クリップ、コッタ ピンをはずし、プーリ ブラケットをはずす。

点 検

- 1 プランジヤ歯部、ボールの摩耗、損傷およびトーション スプリングの変形、ケーブル No. 1 のさび、損傷について点検し、不具合があれば交換する。

分 解

- 1 プランジヤ ピンをプランジヤから打ち出し、プランジヤをガイドからはずす。
- 2 パーキング ブレーキ ボール、トーション スプリングを取りはずす。

組み付け、取り付け

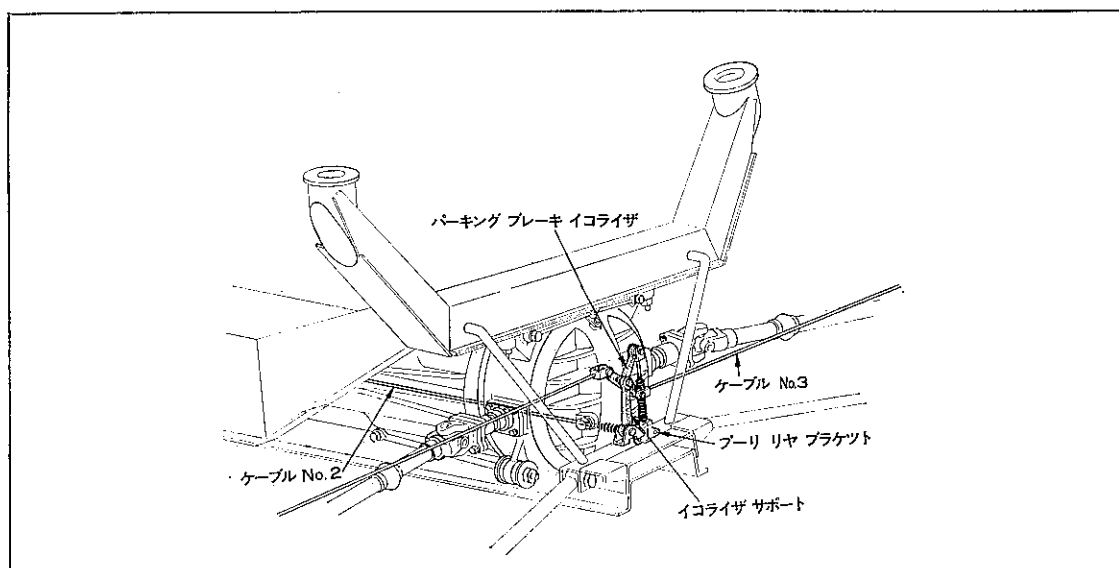
組み付け、取り付けは取りはずし、分解作業の逆に行なう。

注

- 1 ボール、トーション スプリングの組み付け方向に注意する。
- 2 各しゅう動部分にはグリースを塗布する。

パーキング ブレーキ ケーブル No.2 およびケーブル No.3

取りはずし



第14-13図 ケーブル No.2, No.3 取りはずし

G0412

- 1 左右パーキング ブレーキ レバーより、ケーブル No. 3 を取りはずす。
- 2 ケーブル No. 2 とイコライザの取り付けをはずす。
- 3 イコライザ サポート ブラケットの取り付けをはずし、ケーブル No. 3 を取り出す。
- 4 プーリ リヤ ブラケットを取りはずす。
- 5 右側シート、トンネル ダスト シール カバー、プロペラ シャフトを取りはずす。
- 6 パーキング ブレーキ プランジヤを引き、インタミードイト レバーよりケーブル No. 2

のアジャスト ナットをはずし、ケーブル No. 2 およびコンプレッション スプリングを取り出す。

点 検

- 1 ケーブル No. 2, No. 3 のさび、損傷について点検し、不具合があれば交換する。
- 2 各ブシュの摩耗、プーリの動きについて点検し不具合があれば交換する。

取り付け

取り付けは取りはずし作業の逆に行なう。

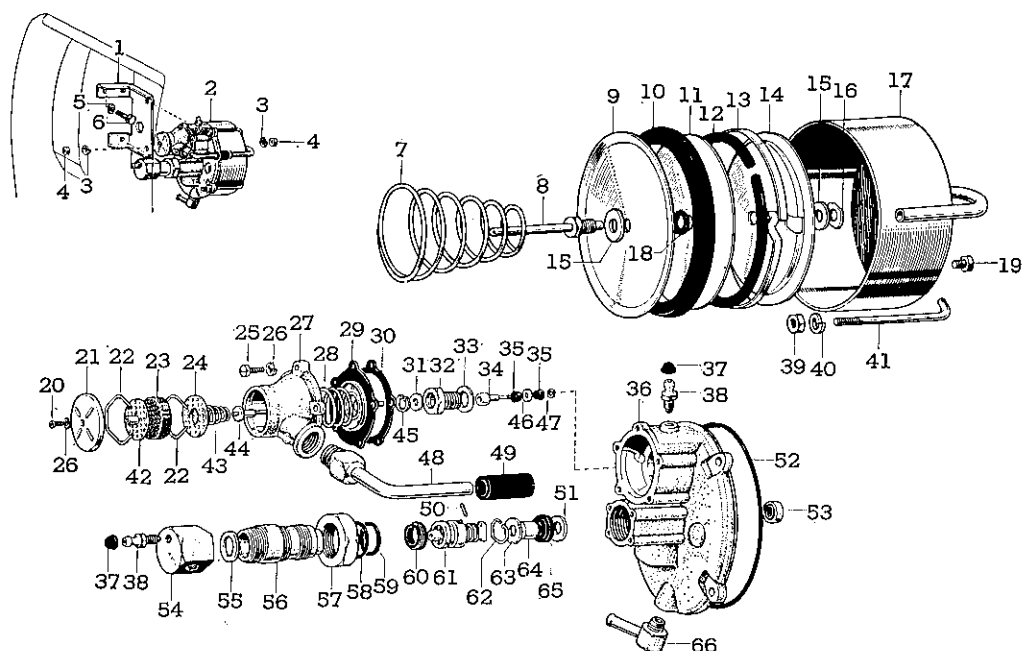
注 各しゅう動部分にはグリースを塗布する。

ブレーキ ブースタ

トラブル シューテイング

現象および推定原因	点検箇所および要領	処 置
ブレーキが効かない、 あるいはペダルが重い バキュームが上がらない あるいは上がり方が遅い	1 接手部のゆるみ 2 マニホールドまでのバキューム パイプのねじれ、破れ 3 バキューム ホースのつぶれ、破れ	修 正 交 換 交 換
バキュームの保持不良	1 前項1, 2, 3, と同様点検 2 チェツク バルブ面, シート面にほこりの付着または損傷 3 エア バルブ面, シート面にほこりの付着または損傷 4 バキューム バルブ面, シート面にほこりの付着または損傷 5 ブースタ ガasket, ブースタ ダイアフラムの損傷	修正または交換 修正または交換 修正または交換 修正または交換 修正または交換
リレー バルブが作動しない	1 インサート オリフィスのつまり	(ブレーキ フル イットド交換)
ブレーキは効くが不充分あるいは緩慢である 気 密 不 良	1 バキューム バルブのバルブ面, シート面にほこり付着または損傷 2 ブースタ ガasket, ダイアフラムの損傷	修正または交換 交 換
通 気 不 円 滑	1 エア クリーナのつまり	修正または交換
ペダルが進む(踏みしろがない) ブレーキ フルイットドの漏れ	1 プツシュ ロッド シールの損傷 2 リレー バルブ ピストン カツプの損傷 3 リレー バルブ フィツティング, スレーブ シリンダ, ロック ナット, シリンダ プラグ等の締め付け不良, および同上部分ガasketの損傷	交 換 交 換 修正または交換
ペダルがはね返る 高油圧(ホイール シリンダ側)の 低油圧側(マスタ シリンダ側) への逆止不良	1 ハイドロリック ピストン カツプの損傷 2 ハイドロリック ピストンのボール チェツク バルブの密着不良	交 換 修正または交換 (ブレーキ フル イットドを交換)
ブレーキが引きづる, あるいは戻らない リレー バルブの作動不良	1 リレー バルブ ピストンのしゅう動不良(戻りが悪い) 2 ポベツト バルブのバルブ シール間距離の不正またはカシメ不充分	修正または交換 修正または交換
ブースタ ピストンの作動不良	1 ブースタ ガasketの潤滑不良	ブースタ オイル 補給
空気が油圧系統内にたまりやすい 油 密 不 良	1 リレー バルブ ピストンのピストン カツプの向き不正 2 ブレーキ配管系統締め付け部の油密不良	修 正 修 正
エンジンを始動すると ブレーキが効く リレー バルブの作動不良	1 リレー バルブ ピストンの作動不良(戻りが悪い) 2 リレー バルブのバルブ シール間距離の不正(長過ぎ)	修正または交換 修正または交換

構成部品



- | | | |
|-----------------------------------|---|------------------------------------|
| 1 ブラケット、ブレーキ プースタ | 23 エレメント、プースタ エア | 45 リング、プースタ リテーナ |
| 2 プースタ アッセンブリ、ブレーキ
ウイズ エア タリーナ | 24 スクリーン アンド カバー サポート
サブ アッセンブリ、プースタ | 46 リテーナ、コントロール バルブ
ピストン カップ |
| 3 ワッシャ、スプリング | 25 スクリュ、プースタ | 47 ワッシャ |
| 4 ナット | 26 ワッシャ、スプリング | 48 コネクタ、コントロール チューブ |
| 5 ワッシャ、スプリング | 27 ボデー、コントロール バルブ | 49 ホース、プースタ パキユーム |
| 6 ボルト | 28 スプリング、プースタ バルブ シート | 50 ピン、プースタ プッシュ ロッド |
| 7 スプリング、プースタ ピストン
リターン | 29 ダイアフラム アンド プレート
サブ アッセンブリ、プースタ | 51 ワッシャ、プースタ プッシュ ロッド |
| 8 ロッド サブ アッセンブリ、
プースタ プッシュ | 30 ガasket、プースタ バルブ ボデー | 52 シール、プースタ シリンダ |
| 9 プレート、プースタ ピストン、
フロント | 31 ワッシャ、プースタ ピストン ストップ | 53 シール、プースタ プッシュ ロッド |
| 10 ガasket、プースタ ピストン | 32 フイツティング、プースタ バルブ | 54 ブラダ、ハイドロリツク シリンダ |
| 11 プレート、プースタ ピストン、リヤ | 33 シール、プースタ バルブ
フィツティング | 55 ガasket、プースタ、No.2 |
| 12 ウイツク、プースタ ガasket | 34 ピストン、コントロール バルブ | 56 ボデー、ハイドロリツク シリンダ |
| 13 リング、プースタ ピストン ガasket | 35 カップ、プースタ ピストン、No.1 | 57 リテーナ、コントロール バルブ
ピストン カップ |
| 14 リテーナ、プースタ ピストン ウイツク | 36 プレート アンド シール サブ
アッセンブリ、プースタ エンド | 58 シール、プースタ ハイドロリツク |
| 15 ワッシャ、プースタ | 37 カップ、プースタ ラバー | 59 シール、プースタ |
| 16 ナット、プースタ | 38 スクリュ、プースタ エア プリーダ | 60 カップ、プースタ ハイドロリツク
ピストン、No.2 |
| 17 チューブ サブ アッセンブリ、
プースタ コントロール | 39 ナット、プースタ、No.2 | 61 ピストン サブ アッセンブリ、
プースタ ハイドロリツク |
| 18 シール、プースタ ピストン ロッド | 40 ワッシャ、プースタ ロック | 62 リング、プースタ スナツプ |
| 19 ブラダ | 41 ボルト、プースタ ツツク | 63 ワッシャ、プースタ ピストン ストップ |
| 20 スクリュ | 42 スクリーン アンド カバー サポート
サブ アッセンブリ、プースタ | 64 リテーナ、プースタ シール |
| 21 カバー、プースタ | 43 スプリング、プースタ ポベツト | 65 カップ、プースタ ハイドロリツク
ピストン、No.2 |
| 22 リング、プースタ スナツプ | 44 バルブ キット、プースタ
ポベツト リプレースメント | 66 バルブ サブ アッセンブリ、
プースタ チニツク |

第14-14図 ブレーキ プースタ構成部品

Y5304

取りはずし

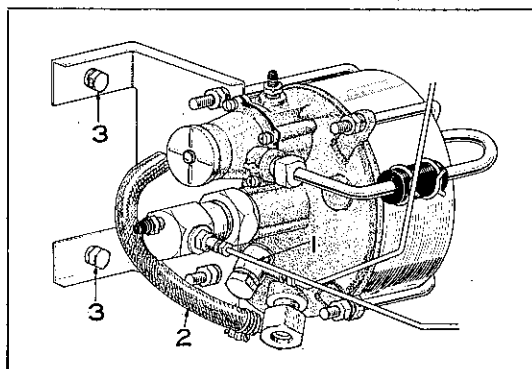
- 1 右サービス リッド アツパを取りはずす。
- 2 サービス リッド ロワーのスライド ロックを、内側よりはらず。
- 3 サービス リッド ロワーのヒンジをはらずし、サービス リッド ロワー プレートをはらず。
- 4 バッテリーを取りはずす。
- 5 ブレーキ チューブ (1) をはらずし、バキューム ホース(2), ブースタ取り付けボルト, ブラケット(3)をはらずし、ブースタ アツセンブリを取りはずす。

分 解

- 1 クランプをはらずし、バルブ ボデーを取りはずす。
- 2 ハイドロリック シリンダ ボデーを取りはずす。
- 3 ハイドロリック ピストンを取りはずす。バキューム ホースからコントロール チューブに低圧圧縮空気 (1 気圧以下) を送り込み、ハイドロリック ピストン(1)をブースタ エンド プレート(2)より突き出させて、プッシュロッド ピン(3)を抜いて取りはずす。

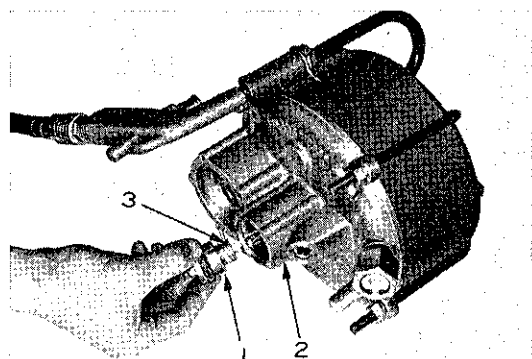
(第14—16図)

- 4 フック ボルトを取りはずし、エンド プレート, ピストン リターン スプリング, ブースタ ピストン アツセンブリを取りはずす。
- 5 ブースタ ピストンを分解する。
- 6 エンド プレートのハイドロリック シリンダ ボデー取り付け部(1)より、スナップ リング(2), ピストン ストップ ワツシャ(3), シール リテーナ(4), ピストン カップ(5), プッシュロッド ワツシャ(6), プッシュロッド シール(7)を取りはずす。



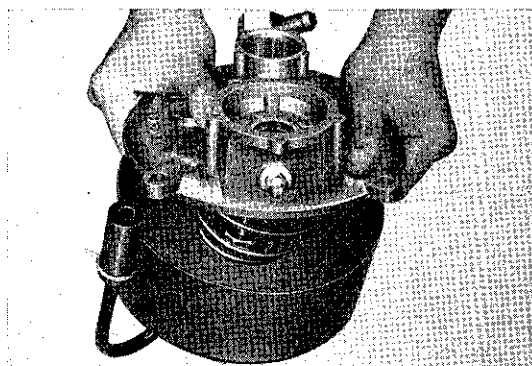
第14-15図 ブレーキ ブースタ取りはずし

G0413



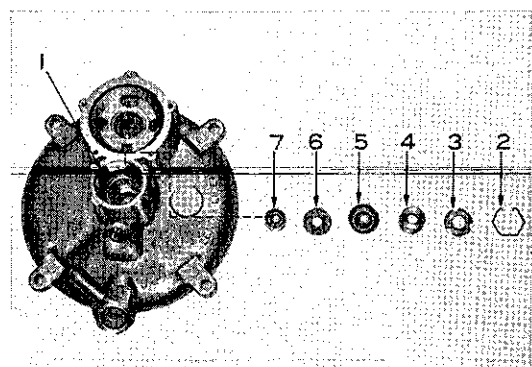
第14-16図 ハイドロリック ピストン取りはずし

V1791



第14-17図 ブースタ分解

V1792



第14-18図 ピストン カップ取りはずし

V1793

- 7 エンド プレートのリレー バルブ チャンバより、バルブ フィットティング(1)を取りはずして、バルブ ピストンを取り出す。

注 リテーナ リング(2)とストップ ワッシャ(3)を取りはずして、リレー バルブ ピストン(4)を取り出してもよい。

- 8 バルブ ボデーを分解する。

点 検

各部品を洗浄する。

- 1 プッシュ ロッドの曲がり、ガスケット ウィック、ガスケット、ロッド シールの損傷、変形、摩耗を点検し、不良の場合は交換する。

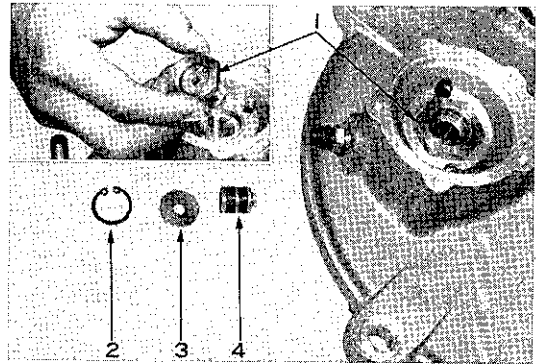
- 2 ハイドロリック ピストンのプッシュ(1)、カップ(2)、ピストン ボール(3)の作動、損傷、摩耗を点検し、不良の場合は交換する。

注 ピストン ボールの気密状態を調べる。

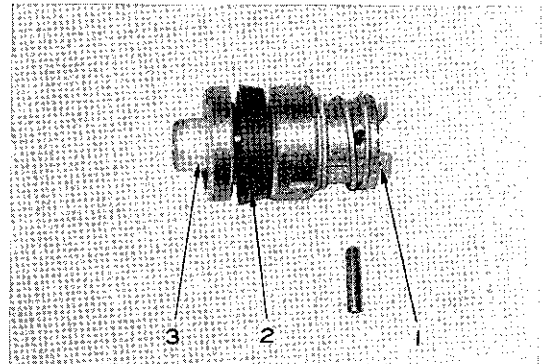
- 3 リレー バルブ ピストン(1)、カップ(2)、バルブ フィットティング内面(3)、ダイヤフラム(4)の損傷、摩耗を点検し、不良の場合は交換する。

注 ピストン カップを交換するときは、カップの向きに注意する。

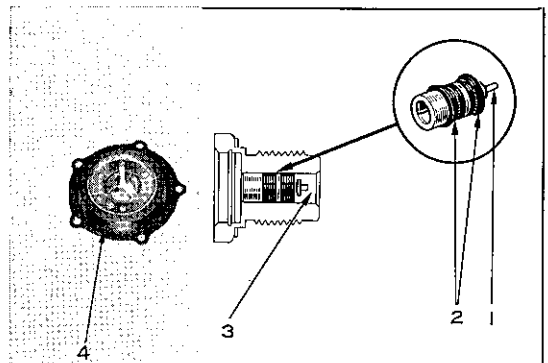
- 4 ハイドロリック ピストン カップ、プッシュ ロッド シールの損傷、摩耗を点検し、不良の場合は交換する。



第14-19図 リレー バルブ ピストン取りはずし W7101



第14-20図 ハイドロリック ピストン点検 W7104



第14-21図 リレー バルブ点検 V1794 G0414

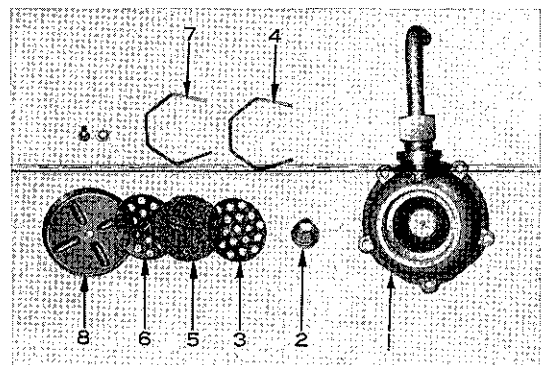
組み付け

注

分解した各部のガスケット、シール類は必ず新品と交換すること。

- 1 バルブ ボデー(1)にポペット スプリング(2)、リテーナ(3)、スナツプ リング(4)、エレメント(5)、スクリーン(6)、スナツプ リング(7)、カバー(8)の順で組み付ける。

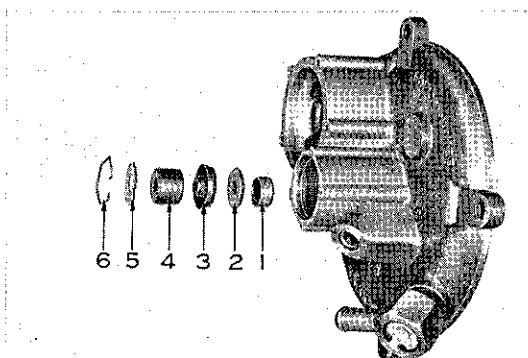
注 ポペット スプリングは小径側をポペット リブ レースメント バルブ側とする。



第14-22図 バルブ ボデー組み付け V1795

- 2 エンド プレートにプッシュ ロッド シール(1)を打ち込んだのち、プッシュ ロッド ワッシャ(2)、ピストン カップ(3)、シール リテーナ(4)ストップ ワッシャ(5)の順に組み込んで、スナップ リング(6)を取り付ける。

注 ロッド ワッシャ(2)は面取りしていない方がカップ(3)側で、リテーナ(4)は凹部がカップ(3)側になるように組み付ける。
(第14-23図)



第14-23図 ハイドロリック ピストン カップ組み付け V1796

- 3 プッシュ ロッドにワッシャを介してピストン フロント プレート、ピストン ガスケット、ロッド シールを組み付けた後、ブースタ オイルを約 30 cc 入れて、リヤ プレート ガスケット ウィック、ガスケット リング、ウィック リテーナを組み、ブースタ ナットで締め付ける。

- 4 ブースタ コントロール チューブにブースタ ピストン アッセンブリとリターン スプリングを入れてエンド プレートを組み付ける。
注 リターン スプリングの大径端をエンド プレート側にする。



第14-24図 ブースタ ピストン組み付け V1797

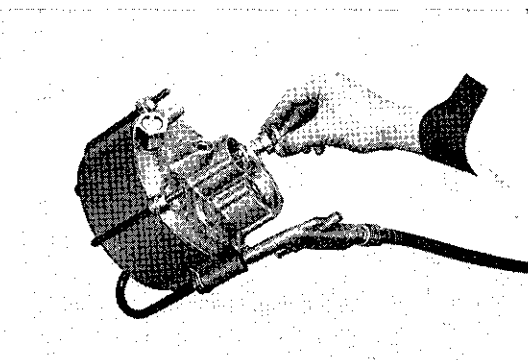
- 5 ハイドロリック ピストンをプッシュ ロッドに組み、ロッド ピンをさしこむ。

注 バキューム ホースより低圧圧縮空気(1気圧以下)を送り込んで、プッシュ ロッドをエンド プレートより突き出させて作業する。

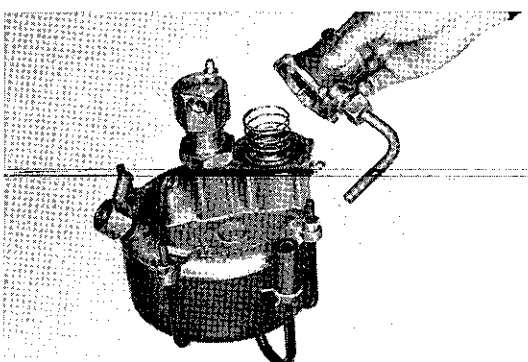
- 6 リレー バルブ ピストンをバルブ フィッティングに組み付けて、エンド プレートに取り付ける。

- 7 ダイアフラムをガスケットを介して、リレー バルブ ピストンに組み付ける。

- 8 ダイアフラムにバルブ セット スプリングを乗せて、バルブ ボデーを組み付ける。



第14-25図 ハイドロリック ピストン組み付け V1791



第14-26図 バルブ ボデー組み付け V1798

9 ハイドロリック シリンダ ボデーをエンド

プレートに組み付ける。

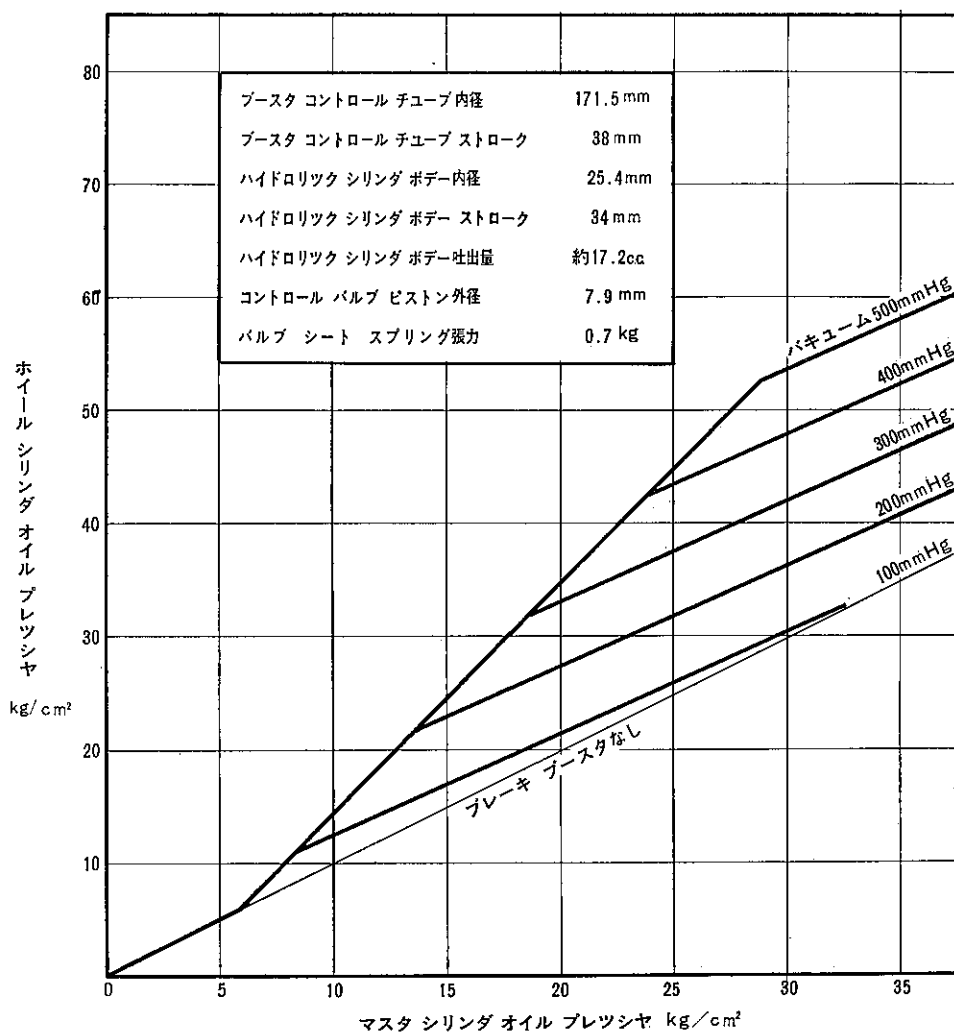
注 ハイドロリック シリンダ ボデーは手で締め付け、エア プリーダとエンド プレートのエア プリーダを同一線上にして、ナットを締め付ける。

- 10 オイル プラグ穴よりブースタ オイルを約30 cc給油する。

取り付け

- 1 取りはずし作業の逆に行なう。
- 2 取り付け後、エア抜きを行なう。

性能試験



第14-27図 ブレーキ ブースタ性能線図

G0415

第 14-3 表 ブレーキ ブースタ試験基準（負圧500mmHg）

試 験 項 目		基 準 値
開 放 時 の 気 密 試 験	15秒間の負圧低下または圧力低下	25mmHg以下
油 密 試 験	12kg/cm ² より10kg/cm ² 降下する所要時間	10秒以上
作 動 開 始 圧 力 試 験	マスタ シリンダ油圧	3～5kg/cm ²
全 負 荷 時 気 密 試 験	15秒間負圧低下	25mmHg以下

リレー バルブの作動および気密試験

- 1 オイル プラグ穴での負圧を 500mmHg に保持し、ブレーキ ペダルを強く踏んだ場合、負圧が瞬間的にゼロになればよい。

注 負圧の変化が緩慢であつたり、ゼロにならない場合はエア クリーナがつまつているか、ピストンカップの不良による作動不良、ダイヤフラム等の破損が原因である。

- 2 負圧を 500mmHg にしてエンジンを停止した際ブレーキ ブースタ 内の負圧の低下が15秒間に 25mmHg 以下であること。

注 規定以上にバキューム ゲージの指針が下がるときは、チェック バルブの気密不良等があるから点検する。